

大学入試基礎知識



はじめに

2020年度（現中学2年生の大学入試）よりセンター試験から評価テストへ移行します。入試制度改革はすでに進行中であり、今春の入試に見られた、英語外部検定試験導入の増加や、入学定員超過率に関する基準改正の影響による私立大合格者の減少などもその一環です。

1. 国公立大学入試

国立大学の魅力としては、私立大学と比較して、教員一人当たりの学生数が少なく、また、科学研究費が多いということなどが挙げられます。

(1) センター試験について

国公立大学志望者は原則受験が必要です。6教科31科目を出題し、受験生は最大9科目を受験可能です。募集人数の9割近くで7科目を課しています。マークシート方式で、平均点が6割程度になるよう作成されています。難問・奇問はなく、教科書レベルの基礎的な問題が出題されます。

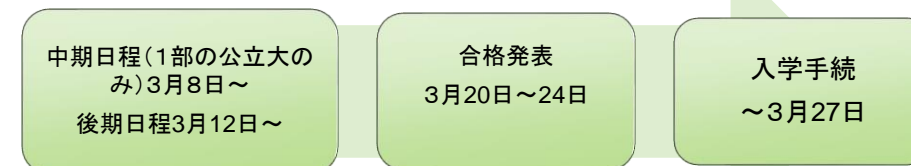
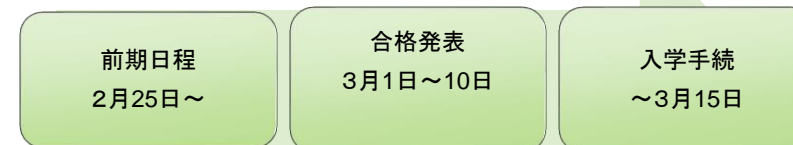
【文系】英語、数学2科目、国語、理科、地歴・公民2科目

【理系】英語、数学2科目、国語、理科2科目、地歴・公民 が一般的です。



(2) 2次試験

2次試験は分離・分割方式で実施します。国公立大学は一般入試（推薦・AO等以外）では最大3回（前期＋中期＋後期）の受験ができます。前期の入学手続きを行うと後期・中期日程の合格対象から外れます。募集人数の約8割は前期日程で募集するので第1志望校は前期で受けることが鉄則です。後期日程は廃止・縮小する大学が増えています。



2. 私立大学入試

(1) 選抜方法

選抜方法・日程は大学によりことなり、推薦・AO等のさまざまな選抜方法があります。一般入試には「一般方式」と「センター利用方式」があります。必要な教科数は3教科が主流です。

(2) 一般方式

入試科目・問題は大学ごとにことなります。複数の入試方式が設定されていることが多く、受験生が受験しやすいような配慮がみられます。入試日の複数化や複数受験した場合の受験料割引、得意科目重視型の方式等、さまざまな工夫がなされています。

【文系】英語、国語、地歴・公民 or 数学から2～3教科が多い

【理系】英語、数学、理科から2～3教科が多い

(3) センター利用方式

センター試験のみの成績で合否が決まるのが主流です。多くの場合、受験料は一般方式と比べて割安になっています。教科数は2～3教科が一般的ですが、4～5教科型のものもあり、教科・科目数が増えるほど、受験生数が減り、倍率は低くなる傾向にあります。また、定員は少なくともその10～15倍の人数の合格者を出すところも多くあります。経済的・体力的負担の軽いセンター利用方式をうまく利用するとよいでしょう。センター利用方式はすべり止め校を確保するために受ける傾向がありますが、第1志望校は一般方式とセンター試験利用方式の両方を受験したほうがよいでしょう。